

あまいんです トウモロコシ

トウモロコシ栽培歴40年

平野 彰さん (東京都あきる野市在住)

あきる野市役所前を東西に走る五日市街道沿いにその街道はあります。昭和20年代後半からトウモロコシの栽培が始まり、当時の記録では、昭和38年に街道を通った人から請われてトウモロコシを譲ったのが、「トウモロコシ街道」として名前が知られるきっかけになったとされています。ピーク時には街道沿いにトウモロコシ販売用の小屋が100以上軒を連ね、その名を全国に轟かせるまでに至りました。



平野彰さん(右)とJAあきがわマイムの谷澤担当。収穫したばかりの「あまいんです」と共に。

出荷先でも好評!「あまいんです」トウモロコシ

平野さんが「あまいんです」を出荷する秋川ファーマーズセンターは、東京都随一の売上高(5.3億円、07年実績)を誇る直売所です。取材に訪れた時期、売場にはナスやトマトなどの果菜類が売場にところ狭しと並んでいましたが、担当の方にお聞きすると、トウモロコシは「開店直後、瞬時になくなってしまいます」とのこと。



平成5年にオープンした秋川ファーマーズセンター。全景と売場の様子です。

特製の「あまいんです」シールが貼られた平野さんの「あまいんです」(枠内写真)。飛ぶような売れ行きに「供給が追いつかない」と嬉しい悲鳴を上げておられました。平野さんは、2009年春も「あまいんです」に取り組みます。



500gはあろうかというあまいんです。「房の大きさが「あまいんです」の魅力だ」と平野さん。

タケノコ出荷の後からトウモロコシを収穫

平野さんの春は3月にトウモロコシを播種、3月下旬からタケノコ出荷が始まり、5月末にタケノコが落ち着いた後は水田管理と大忙し。トウモロコシの収穫は、6月末から始まります。

平野さんが語る「あまいんです」の魅力

「『あまいんです』は今年で作付2年目ですが、とにかく甘く、房が大きいのが魅力です。また、草丈が比較的低いために安定感があります。ただ、果実の色がやや淡いことが欠点と言えば欠点ですね」と平野さん。

「あまいんです」の売りのひとつである甘みについては、他の品種と比べて果糖分の割合が高く、甘味にしつこさを感じさせません。お子さんからお年寄りまで、幅広い世代から支持を受けています。

